

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第7部門第3区分

【発行日】平成27年2月19日(2015.2.19)

【公開番号】特開2014-82760(P2014-82760A)

【公開日】平成26年5月8日(2014.5.8)

【年通号数】公開・登録公報2014-023

【出願番号】特願2013-209777(P2013-209777)

【国際特許分類】

H 04 R 1/00 (2006.01)

F 01 N 1/00 (2006.01)

G 10 K 11/178 (2006.01)

【F I】

H 04 R 1/00 310 Z

F 01 N 1/00 A

G 10 K 11/16 H

【誤訳訂正書】

【提出日】平成26年12月26日(2014.12.26)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

スピーカハウジング(2；2')と、

前記スピーカハウジング(2；2')内に保持され、永久磁石(9)を有するバスケット(3)と、

前記永久磁石(9)により発生する定磁場内に配置され、振動板(5)に接続されたコイル(91)と、

加熱ゾーン(Z1)および冷却ゾーン(Z3)を有する1つ以上のヒートパイプ(10)とを備えたスピーカ(1；1'；1'')であって、

前記加熱ゾーン(Z1)は前記永久磁石(9)に配置され、前記冷却ゾーン(Z3)は前記スピーカハウジング(2；2')に配置されており、

前記1つ以上のヒートパイプ(10)は、前記永久磁石(9)に恒久的且つ強固に接続されており、

前記1つ以上のヒートパイプ(10)は、冷却ゾーン(Z3)において、前記スピーカハウジング(2；2')に取り外し可能または移動可能に接続されていることを特徴とするスピーカ。

【請求項2】

前記1つ以上のヒートパイプ(10)は、

特に金属で形成された壁(13)により封鎖された管状の密閉空間と、

前記空間の内部に収容され、特にプラスチック細管および/または金属細管および/または織物および/または編組(braiding)の形状をとるキャピラリー(14)と、

前記空間の内部に収容され、液体状態では前記空間の小部分、気体状態では前記空間の大部分を満たし、特に(CH_3OH) OH 、(CH_3CO) CO 、 NH_3 、 H_2O 、 C_6H_6 である作動媒体とを含む、請求項1に記載のスピーカ(1；1'；1'')。

【請求項3】

前記スピーカハウジング(2；2')の外部側は、前記1つ以上のヒートパイプ(10)

)が配置された領域に冷却リブを備えている、請求項1または2に記載のスピーカ(1；1'；1'')。

【請求項4】

前記1つ以上のヒートパイプの前記加熱ゾーンと前記永久磁石との間の接触領域に、熱伝導ペーストが供給されている、請求項1、2または3に記載のスピーカ(1；1'；1'')。

【請求項5】

前記ヒートパイプと前記スピーカハウジングとの間の残りのギャップに、熱伝導ペーストが供給されている、請求項1～4のうちいずれか1項に記載のスピーカ(1；1'；1'')。

【請求項6】

前記1つ以上のヒートパイプ(10)の前記冷却ゾーン(Z3)および/または前記加熱ゾーン(Z1)は、熱伝導率が100W/(m*K)以上、特に150W/(m*K)以上の材料からなるブロックを備え、

前記1つ以上のヒートパイプ(10)の前記冷却ゾーン(Z3)または前記加熱ゾーン(Z1)は、それぞれ前記ブロックを介して間接的に前記スピーカハウジング(2；2')または前記永久磁石(9)上に配置されている、請求項1～5のうちいずれか1項に記載のスピーカ(1；1'；1'')。

【請求項7】

前記スピーカハウジング(2；2')は、プラスチックで形成され、前記1つ以上のヒートパイプ(10)の前記冷却ゾーン(Z3)が位置する前記スピーカハウジングの領域は、熱伝導率が100W/(m*K)以上、特に150W/(m*K)以上である封止体または注入体(injected body)を備えている、請求項1～6のうちいずれか1項に記載のスピーカ(1；1'；1'')。

【請求項8】

前記永久磁石(9)は、前記1つ以上のヒートパイプ(10)の前記加熱ゾーン(Z1)が配置される1つ以上のボアホールを有し、前記コイル(91)は、少なくとも断面において、前記ボアホールを取り囲む、請求項1～7のうちいずれか1項に記載のスピーカ(1；1'；1'')。

【請求項9】

前記スピーカは、外的影響(outside influences)に対して封止されている、請求項1～8のうちいずれか1項に記載のスピーカ(1；1'；1'')。

【請求項10】

音波を能動的に消去するまたは音波に影響を与えるための、請求項1～9のうちいずれか1項の特徴を有するスピーカの使用。

【請求項11】

内燃機関駆動車両の排気系のための騒音制御システム(100)であって、
前記騒音制御システム(100)は、
対抗音制御器(102)と、

前記対抗音制御器(102)に接続されて制御信号を受信する、請求項1～9のうちいずれか1項の特徴を有する1つ以上のスピーカ(1；1'；1'')とを備え、

前記スピーカ(1；1'；1'')は、前記対抗音制御器(102)により受信された制御信号に応じて、前記排気系のダクト(101)において対抗音を生成するように設計されている、騒音制御システム。

【誤訳訂正2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0020

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0020】

一実施形態において、上記1つ以上のヒートパイプは、上記冷却ゾーンにおいて上記スピーカハウジングに取り外し可能に接続されている、および／または、上記冷却ゾーンにおいて上記スピーカハウジングに移動可能に接続されている。これにより、一方では組立が容易になり、他方では許容誤差と熱応力(thermal tension)を確実に補償することができる。一実施形態において、残りのギャップは、熱伝導ペーストを供給することにより補償することができる。